

OBRIGADA PORTUGAL

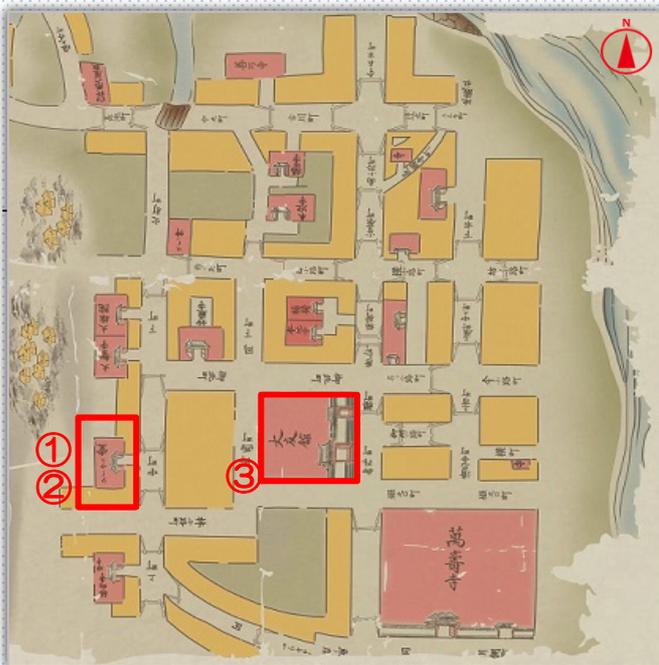
Oita Japan Portugal Association

「オブリガダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」(女性が言う場合)の意味です

中世の国際都市「府内」の旧跡をめぐる

戦国時代の府内のまち(現:大分市元町・顕徳町・錦町・長浜町)は、21代目当主の大友宗麟により、世界各国から商人やキリスト教宣教師などが訪れ、40あまりの町が存在し、5000軒もの家屋が建ち並ぶなど、様々な人が行き交い賑わう、国際色豊かな都市でした。

今回は、中世の国際都市であった「府内」から、ポルトガルをはじめ、ヨーロッパとの交流にかかわる旧跡をめぐる。



戦国時代の府内のまちを描いた「府内古図」

※江戸時代初期に、府内藩主日根野吉明が住民に書かせた絵図と言われ、1581~1586年(天正9~14年)頃のまちの姿を描いたものと考えられている。1998年にこの古図をもとに発掘調査を行ったところ、大友館の一部である庭園跡が発見された。その後の調査でも道路や町家、お寺等が発見され、調査を行う上で重要な資料となっている。

南蛮BVNGO交流館



住所: 大分県大分市顕徳町3丁目2-45
開館時間: 9時~17時
(入館は16時30分まで)

入場料: 無料
※休館日等最新情報はFacebookをご覧ください。

 <https://www.facebook.com/oita.otomo/>



① デウス堂跡

デウス堂(別名:府内教会、ダイウス堂)は、1553年に建てられた、大友館の西側に位置するキリスト教の教会です。教会内は、ピオラやオルガンなどの西洋楽器があり、日本人信者と一緒に合奏したり、ミゼレレ等の讚美歌を合唱したりしたようです。



デウス堂跡(大分市顕徳町)

② 府内病院

府内病院は、デウス堂に隣接し、1557年に開設した、外科と内科を備えた日本初の西洋式病院であり、外科をルイス・アルメイダが、内科を元僧侶の日本人パウロが行っていました。アルメイダの医療技術は当時の日本より優れていて、10年、20年も治らなかった病気や傷が、15日間で全快したという記録も残っており、京都や堺からも多くの人が治療のために訪れたとのこと。

③ 大友氏館跡

10代当主の親世の頃に築かれ、宗麟・義統(21・22代)の頃の改修により200m四方ほどの広大な敷地を持つ館となり、1586年(天正14年)の島津氏によって府内が攻められるまで存在していました。1551年の宗麟とフランシスコ・ザビエルの会見もこの地で行われたとのこと。

現在は、大友館に存在した庭園の復元整備を終え、昨年6月から一般公開しており、発掘調査で見つかった景石の一部や、庭園を彩る樹木の四季折々の姿を見ることができます。

また、同じ敷地内にある南蛮BVNGO交流館では、館跡内を実際に歩きながら、立体CGで推定復元された大友館を、VRで楽しむことができます。



大友氏館跡庭園

2021年
3月発行



大分日本ポルトガル協会

■事務局

大分市企画部国際課

■TEL / FAX

097-537-5719 / 097-536-4044

■住所

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

■Eメール

kokusai@city.oita.oita.jp

鎌倉日本ポルトガル協会 伊藤会長と大阪日本ポルトガル協会 松尾氏が大分を訪れました



左から杉村会長、伊藤玄二郎氏、松尾隆之氏

令和2年12月17日(木)に、鎌倉日本ポルトガル協会の会長を務める伊藤玄二郎氏と、大阪日本ポルトガル協会会員の松尾隆之氏が杉村会長を訪問され、会談を行いました。

伊藤氏は、1970年から現在まで、(株)かまくら春秋社の代表を務めており、2004年には、ポルトガル政府からエンリケ王子勲章コメンダドール章叙勲を受章するなど、長年に渡りポルトガルの歴史や文化に関する取材・研究をされています。今回の会談では、それぞれの協会で行ってきた活動や、新型コロナウイルス収束後のポルトガルとの交流の方向性などについて、意見交換を行いました。



新型コロナウイルス

☆非常事態宣言・ポルトガル国内の感染状況について

ポルトガルでは11月9日に非常事態宣言が発令され、以降、感染状況を見ながら、現在は3月16日まで宣言を延長することが閣議決定されています。1月には感染者数・死者数ともに最多を更新し、医療体制が逼迫するなど、欧州の中でも極めて深刻な状況でしたが、同月13日に、さらに厳しい制限措置（ロックダウン）をとったことにより、2月下旬に入りようやく新規感染者数・死者数が減少し、改善の兆しが見られています。

☆ワクチンの接種状況について

政府は12月3日に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種計画を発表し、同月28日からワクチン接種を開始しました。高齢者等福祉施設入所者、基礎疾患を有する高齢者、医療及び福祉従事者を最優先接種対象者としており、2月27日時点で、国内では837,887回（1回目接種：574,062人、2回目接種：263,825人）の接種が完了しています。100人あたりの換算では7.5人が接種したことになり、EU平均の6.83人を上回る一方で、製薬会社によるワクチン供給の遅延等により、当初の接種計画から遅れが生じ、3月末までを目指していた、基礎疾患を有する65歳以上79歳以下の高齢者全員に対するワクチン接種の保証ができなくなったことを政府は認めました。

※参考：在日本ポルトガル大使館発行「ポルトガル月報」（12月～2月号）

ポルトガル大統領選

1月24日にポルトガル大統領選が行われました。新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言下での選挙となり、報道によると、投票率は前回（48.7%）を大きく下回り、過去最低の39.5%で、開票の結果、現職で中道右派の野党・社会民主党のマルセロ・レベロ・デ・ソウザ氏が(72)が、およそ6割もの得票率を獲得するなど、2位以下の候補を大きく引き離して、再選を果たしました。

ポルトガルワインの夕べについて (お知らせ)

例年5月に開催しております、大分日本ポルトガル協会主催の「ポルトガルワインの夕べ」について、新型コロナウイルスの感染状況等を考慮し、令和2年度の実施は見送ることとなりました。楽しみにされていた方は大変申し訳ございません。今後の開催につきましては、感染症の状況を注視しながら、安全が確認されたうえで実施したいと考えておりますので、それまでしばらくお待ちください。

編集後記

今回の「オブリガーダ」は、いかがでしたでしょうか。

昨年からの世界的に拡大している新型コロナウイルス感染症により、東京五輪が1年延期されたり、当協会においても、ポルトガルワインの夕べの開催を見送るなど、予定していたイベントが全くできない1年となってしまいました。その一方で、オンラインでの国際交流に活路を見出すなど、感染症をきっかけに、新たな時代が到来したと感じた1年でもありました。

今回も、日本ポルトガル協会の会報誌『ポルトガル便り』のスクラップを同封しております。

事務局では、これからもポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思っております。

みなさまからの情報・お知らせなどがありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

★大分日本ポルトガル協会事務局★